

事業計画書

事業名	訪ねたい・使い続けたい建築選定事業
種類	特定分野事業ネーミング枠 ((一財)さいたま住宅検査センター 住まい・まちづくり支援事業)
1. 事業の目的	戦後の高度経済成長期に形成されてきた建築物などを地域の社会資本の視点から見直したい。1950 年からおおむね 2000 年の間に建築された公共的な利用をしている建築物等は私たちが居住する地域の記憶を醸成してきた。コロナ禍によって私たちは地域への視線の大事さを実感した。具体的なキーワードが「訪ねたい」「使い続けたい」という言葉ではないだろうか。 この調査によって県内にある公共的な利用をしているこうした建築物等を選定して、これからの豊かな社会資本構築への端緒とすることを目的とする。
2. 事業で取り組みたい地域や社会の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の老朽化や耐用年数の経過などで建築物等の存続が判断されるだけでなく、使い続けるという愛着や記憶醸成の視点から社会資本の再評価が必要である。 ・県内の公共的な利用をしている施設は、様々な個別的活動をしているが、地域空間のなかで培ってきたことへの気づきは益々重要になると考える。 ・地域で活動している人や団体が地域の資産を活用していくための新たな関係づくり(「公民連携」)が課題である。
3. 具体的な事業内容	<p>(1)「訪ねたい建築」の選定の作業</p> <p>①選定作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれた利用をしている場所・建物を目標 50 件のリストアップをして、現地調査・ヒアリング(30 から 50 件)をする。 ・それらを電子情報で閲覧できるように体裁・仕様などを作成する。 ・選定委員会を設置して、選定作業の進め方、リストアップされた対象の絞り込みなどについて議論し、選定する。現在、100 を超える建築物を彩の国景観賞等、建築専門誌、埼玉県景観資源データベースなどから抽出している。 ・県内の景観整備機構及び建築系大学、各地域の NPO 団体などで活動している方々に調査協力を得る。 <p>②対象建築物等に関する整理項目</p> <p>設計者等の諸元、デザインや利用の特徴、周辺の訪ねたい建築等を調査票で整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・票は電子情報として作成して、プリントアウトを可能にする。

③選定作業の構成メンバーは、青山恭之氏（建築家）、伊豆井秀一氏（美術研究）、高松敬氏（建築史）。事務局として古里実氏（埼玉大特任教授）、若林祥文。

（２）「使い続けたい建築」のヒントを得る調査

使い続けたい建築の先進事例である入間市文化総合アトリエ・アミーゴ、鳩山町コミュニティマルシェ、宮代町進修館などを調査して、具体的な公民連携の実践や活動の記録から地域の記憶へと結びつけるアーカイブ構築のヒントを得る。

①特徴的な取り組みをしている宮代町進修館の一步進んだ「使い続けたい建築」の活動状況を把握し、ヒントを得たい。

・「世界にどこにもないもの」「子供たちが誇りに思えるようなもの」を作りたいと当時の町長が発意したというユニークな生い立ちをもつ進修館は世界的に有名な建築である。建物は 40 年を経て老朽化が進み大規模な修繕時期を迎えている。指定管理者・NPO 法人 MCA サポートセンターは 40 周年事業を企画し、この建物の 10 年後を見すえて使い続けたい思いを実現していく「進修館ファンクラブ」を設立している。地域の記憶の共有化を図る「まちのアルバム」の制作などの実践から、次の発展の方向を探るコミュニティアーカイブの構築を検討している。（内の目から）

また、みやしろ市民ガイドクラブは、進修館・笠原小学校がある区域を国内外の見学者に案内し定評がある。（外からの目）今後構築されるアーカイブにこうした経験や知識の集積を図ることで一層のガイド方法の工夫が期待できる。

・まちの魅力を記録し共有化するワークショップをガイドクラブの協力を得て実施し、他の地域に参考となるヒントを得たい。

（３）成果等の発表と今後の共通認識を図るシンポジュームの開催

・シンポジュームを進修館内で行う。

・当日の内容案

第 1 部：「訪ねたい・使い続けたい建築」調査結果の概要発表

第 2 部：本調査の結果を共有化し、議論を深める。

・シンポジュームのパネラー候補：

a. 勝木祐仁氏（日本工業大学教授）：アーカイブ（まちのアルバム）の実践者

b. 真鍋陸太郎氏（東京大学助教） デジタルアーカイブの取り組みを各地で実践。「メタ観光」を提唱。在住。

c. 手島互氏（建築家）：みやしろ市民ガイドクラブ。在住。

なお、新型コロナの蔓延状況によっては、別案としてオンライン会議を検討する。

<p>4. 具体的な事業の実施計画</p>	<p>○事業のスケジュール</p> <table border="1" data-bbox="488 197 1342 622"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月</td> <td>・調査の準備</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>・一次調査の実施</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>・2次調査の実施(10月末まで)</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>・ワークショップの開催(宮代町)</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>・ヒアリング調査の実施</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>・シンポジュームの開催</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>・まとめの作業</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>・まとめの作業(報告書の印刷など)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○広報計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPもしくはFacebookなどを活用する。 ・WS参加については口コミを主とする。 ・県内の地域経済新聞、「まち座」等に掲載を依頼する。 	時期		7月	・調査の準備	8月	・一次調査の実施	9月	・2次調査の実施(10月末まで)	10月	・ワークショップの開催(宮代町)	11月	・ヒアリング調査の実施	12月	・シンポジュームの開催	1月	・まとめの作業	2月	・まとめの作業(報告書の印刷など)
時期																			
7月	・調査の準備																		
8月	・一次調査の実施																		
9月	・2次調査の実施(10月末まで)																		
10月	・ワークショップの開催(宮代町)																		
11月	・ヒアリング調査の実施																		
12月	・シンポジュームの開催																		
1月	・まとめの作業																		
2月	・まとめの作業(報告書の印刷など)																		
<p>5. 事業の実施体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局：都市づくりNPOさいたま内 事業責任者：若林祥文 補助者：古里実 経理担当：三浦匡史 																		
<p>6. 来年度以降どのように事業を継続し発展させていくか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象となる建築事例の収集は継続して行う。 ・HP等で情報は公開して、絶えずブラッシュアップしていく。 ・それぞれの場所などでアーカイブの取り組みをする意向があれば、積極的に支援していく。 ・対象が100件を超えたら、印刷物にまとめたい。 																		
<p>7. 今回の事業が他の団体、行政等が実施する同種の事業と比べて優れていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くは観光ガイド、物見遊山的なものであり、地域資産を増やしていくという視点を加えることができる。 ・行政は公共施設の廃止・再編を経済性の観点から検討しがちであるが、利用者の市民から主体的な行動を引き出していく取り組みは稀である。豊かな地域空間を醸成していくために、市民の活動を促すための機会や情報の提供を進めたい。 																		